

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第4号(8月))

標記について、次のとおり発表します。

《8月の病虫害発生予報》

＜作物＞

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲		いもち病			
		縞葉枯病 (ヒメビウンカ)			
		内えい褐変病			
		紋枯病			
		セジロウンカ			
		トビロウンカ			
		コブノメイガ 斑点米カメムシ類			
ジャンボタニシ(発生に注意)					

＜果樹類＞

品目	程度 少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病	
			褐斑病		
			晩腐病		
			チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ		
もも				せん孔細菌病	
クビアカツヤカミキリ(発生に注意)					
みかん		そうか病	黒点病		ミカンハダニ
			ナシマルカイガラムシ		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類 全般		果樹カメムシ類			

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす				うどんこ病		
				ミナミキイロアザミウマ		
				ミカンキイロアザミウマ		
				テントウムシダマシ類		
しつな等 (キャベツ・ あぶらな野菜)				コナガ		
				ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)		

<花き類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			黒斑病・褐斑病	アザミウマ類	白さび病	

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類全般 野菜類				アブラムシ類		
				ハダニ類		
				ハスモンヨトウ		
				シロイチモジ ヨトウ		
				オオタバコガ		

《今月のトピックス》

■発生が平年よりやや多いと予想される病害虫

【ぶどう】 ベと病

【もも】 せん孔細菌病

【みかん】 ミカンハダニ

【野菜・花き類】 シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ

- ・害虫は発生初期の防除が重要です。
- ・シロイチモジヨトウの多発が引き続き予想されます。暑さが一段落するタイミングで急激に増加する可能性がありますので、ほ場の様子に注意しましょう。
- ・べと病やせん孔細菌病は、病原菌が園内で越冬しますので、発生時には収穫後も防除を行うほか、被害葉や被害果実などを園外に持ち出して処分することが重要です。

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【あぶらな科野菜（キャベツ・ブロッコリー等）】 コナガ

- ・キャベツ等の苗作りの季節ですが、ここ数年、コナガでは一部のジアミド系農薬の効果が低下しています。苗床と本ぼで同じ系統の薬剤の連用はやめ、ローテーション散布を行いましょう。

■地域により発生が増えており、今後の発生に注意が必要な害虫

【水稻】 ジャンボタニシ

【もも、うめ、すももなどバラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

《(参考)8月の気象予報》(大阪管区气象台7月25日発表)

気温	低い (20%)	平年並 (30%)	高い (50%)
降水量	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)
日照時間	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤（アミスター、嵐、オリブライト、イモチエース等）耐性菌の発生が報告されている。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・保毒検査で、保毒したヒメトビウンカは確認されなかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・窒素質肥料の過用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。
内えい褐変病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の発生は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穂ばらみ期(出穂前 18 日頃～出穂期)に薬剤を散布する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期に高温多雨であれば発生が多くなる。
紋枯病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿であれば発病が多くなる。
セジロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
トビイロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 ・予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
コブノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・予察灯への飛来虫数、フェロモントラップによる誘殺虫数とも平年並であった。
斑点米カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂2週間前までに、ほ場周辺のけい畔の除草を行う。

ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	[防除上考慮すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・近年、生息地域が拡大している。 ・田植え後約20日経過後は、新たな食害被害は出にくいですが、貝の密度を低くするために、ピンク色の卵塊を発見した場合は水中に掻き落とす。
-----------------------	-------	---

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	やや多い	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生が平年よりやや多かった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・一度発生すると急速に被害拡大することが多いため、ほ場の見回りをこまめに行う。 ・発生園地では、使用時期に注意し、薬剤防除を行う。 ・発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。 ・QoI 剤は耐性菌が生じやすいので、1 作 1 回程度の使用に努める。 ・発生園地では、収穫後にも IC ボルドーなどで防除を行う。 [メモ] <ul style="list-style-type: none"> ・露地栽培で発生が多い。 <p>※「露地ぶどう べと病に注意！」(7月19日発表)参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/201907beto.pdf</p>
褐斑病	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
チャノキイロアザミウマ	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・果粉溶脱に注意し、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 [メモ] <ul style="list-style-type: none"> ・大粒系品種では果実の傷や果軸の褐変が起りやすい。
フタテンヒメヨコバイ	並	[予報の根拠] <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 [注意すべき事項] <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除によりダニ類発生を誘発する可能性があるため、ダニ類の発生が見られる園ではダニ剤散布もあわせて行う。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果実や枝病斑は、感染源となるためほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・発生の多かったほ場では、9月～10月に、IC ボルドーなどを散布する。
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫を見つけ次第、捕殺する。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は4月～10月頃にフラス（中華麺～うどん状に固まる木くず等の混合物）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 <p>※「クビアカツヤカミキリに注意！」（5月7日発表）参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/bouj_yoj_youhou/H3105kubiaka.pdf</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ（みかんを除く）では収穫 90 日前までなので注意する。
そうか病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。
ミカンハダニ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・8月の気温は、平年より高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。
ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫発生期に薬剤を散布する。 ・樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。

4 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 青色粘着トラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤防除を徹底する。 同一系統薬剤の連用を避ける。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップによる誘殺虫数は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 一部地域で多発との報告があった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> うどんこ病は日照不足、他の病気と比べて乾燥条件下で多発する。 QoI剤(アミスター、ストロビー)、SDHI剤(アフェット)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。0.8mm目合の赤色ネットは、0.4mm目合の白色ネットと同等の効果がある。 露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> なす果実(水なす、千両なすとも)ではがくの内側の果面が褐変し、筋状の傷が広がる。多発すると果面全体に傷が広がり、褐変する。

ミカンキイロ アザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水なす果実での被害では、果頂部に円形状の脱色斑点が生じ、ひどい場合は果頂部全体が着色不良になる。
テントウムシ ダマシ類 (ニジュウヤホシテ ントウ・ オオニジュウヤホシ テントウ)	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害葉を見つけたら、薬剤散布による防除を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉裏が薄くかじられ、階段状に透けて見える。果実の表面も薄く階段状にかじられ、その部分は硬く褐色になる。

2 あぶらな科野菜 (キャベツ・しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 ・予察灯への飛来虫数はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯への飛来虫数は、やや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、育苗中にかん注剤の施用を行い、発生初期に防除を徹底する。

D 花き きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。

白さび病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は多かった。 ・8月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病の多いほ場では、密植を避け風通しを良くする。 ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除き、ほ場外に持ち出し処分する。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花卉に被害を及ぼすミカンキイロアザミウマ等の他に、葉にハダニ類に似た被害を及ぼすクロゲハナアザミウマ等があるため、被害状況に応じ防除を行う。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病害が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルスには、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・8月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。
ハスモンヨトウ	並～ やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は先月に引き続きやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>※「シロイチモジヨトウに注意！」(6月11日発表)参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0106shiroiti.pdf</p>
オオタバコガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府の発生状況と気温から算出した発生予測モデルでは、平野部では本年第2世代の発生ピークは8/7日頃と推定される。従って防除適期はその7～10日後の8月中旬である。中山間地では約5～7日遅れとなる。 ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> 最新の防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ
メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailservicemousikomi.html>

※年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。(情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です)

●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所
企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

※最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

●「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/jigyotoppage/atsusataisaku.html>

「暑さ指数情報発信サービス登録サイト」(環境省熱中症予防情報サイト内)

http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php

※大阪府では、府民のみなさまに夏の暑さに備えていただくため、「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」を開設しています。「暑さ対策」の情報サービスのお知らせや暑さをしのぐ工夫や情報もごさいます。熱中症対策には是非ご活用ください。